

科目名	解剖学	科目分類	<input type="checkbox"/> 基礎教育科目 <input checked="" type="checkbox"/> 専門教育科目
			<input checked="" type="checkbox"/> 卒業必修 <input checked="" type="checkbox"/> 栄養士必修 <input type="checkbox"/> 選択
		開講年次	<input checked="" type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 2年
英文表記	Anatomy	開講期間	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中
ふりがな	ひろ かわ ただ お	授業形態・修得単位	講義・2単位
担当教員名	廣 川 忠 男	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用
		実務家教員担当科目	
授業のテーマ	人体諸器官の解剖学的特徴について理解する。		
授業概要	生態の基本単位は細胞であり、細胞の機能分化によって組織や器官そして基幹系が成り立っている。解剖学は人体を構成する身体の仕組みを細胞から器官レベルについて探求するもので、生命科学の基礎となる重要な領域である。本講では、人体を各系統に分け、それらを構成する各器官の形態と構造について解説し、基礎的な人体解剖学の概念を十分理解できるように努めていきたい。		
到達目標	人体および各種器官系の構造上の特徴を理解し、各部の名称を覚えるとともに説明できる。		
授業時間外の学習	授業の前にテキストの関連ページを通読し、よく理解できない事項を整理して臨むこと。生理学・生化学・病態生理学などとの関連性を意識して学習すること。常に復習（週に最低60分程度）を心がけ、わからない部分は図書館等で調べたり、教員に質問するなどして理解に努めること。		
履修条件	基礎教育科目の「生物学」と併せて受講することが望ましい。		
授業計画			
第1回	テーマ： 人体の概要（解剖学的正位／人体の面／体幹／体肢／体腔／位置関係）		
第2回	テーマ： 消化器系(1)（口腔／咽頭／食道／胃）		
第3回	テーマ： 消化器系(2)（小腸／大腸／肝臓／膵臓）		
第4回	テーマ： 血液の組成(1)（血漿／血清／血球／血液型／ヒト白血球抗原／体液）		
第5回	テーマ： 血液の組成(2)（血液型／ヒト白血球抗原／体液）		
第6回	テーマ： 循環器系（心臓の構造／体循環／肺循環／胎児循環／血管系／リンパ管）		
第7回	テーマ： 呼吸器系（鼻腔／咽頭／喉頭／気管／気管支／肺泡／肺／胸膜）		
第8回	テーマ： 泌尿器系（腎臓／尿管／膀胱／尿道／ネフロン）		
第9回	テーマ： 神経系(1)（中枢神経系の分類／脳／脊髄）		
第10回	テーマ： 神経系(2)（末梢神経系の分類／脳脊髄神経（体性神経）／自律神経）		
第11回	テーマ： 特殊感覚器（視覚／聴覚／平衡覚／味覚／嗅覚）		
第12回	テーマ： 内分泌系（視床下部／下垂体／甲状腺／上皮小体／膵臓／副腎／性腺／消化管）		
第13回	テーマ： 骨格系（形状と構造／硬骨と軟骨／主要骨格／骨の連結）		
第14回	テーマ： 筋組織（分類と特徴／主要骨格筋／表情筋／咀嚼筋）		
第15回	テーマ： 生殖系（精巣／精巣上体／精管／前立腺／乳腺／卵巣／卵管／子宮）		
第16回	定期試験		
テキスト	上嶋 繁ほか編：健康・栄養科学シリーズ「解剖生理学」南江堂 2020（生理学と共通テキスト）		
参考文献・資料	講義の中で適宜紹介する。		
成績評価の方法	出席回数の規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。定期試験（70%）、小テスト・レポート・受講態度（30%）により評価する。		
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)		
オフィスアワー	毎週の授業終了時		
受講生に望むこと・受講のルール	毎回の出席カードで質問を受け付けるので、疑問点・理解できない点は遠慮なく質問すること。授業には積極的な姿勢で臨んでほしい。講義回数の3分の1を超えて欠席した場合は、期末試験の受験資格を失うので注意のこと。		